

令和 4 年 第 8 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和4年7月12日(火)

開会午後1時00分、閉会午後1時42分

II 場所

県民会館701号室

III 出席委員

1番 黒田 卓

2番 町野 利道

3番 村上 美也子

4番 坪池 宏

5番 大西 ゆかり

教育長 荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長 広沢 久也

教育次長 中崎 健志

教育企画課長 坂林 根則

生涯学習・文化財室長 吉田 学

教職員課長 板倉 由美子

県立学校課長 番留 幸雄

小中学校課長 水戸 英之

保健体育課長 大島 一恵

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 議決事項

議案第18号 令和5年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程の件

県立学校課長より説明し、原案のとおり可決した。

2 報告事項

(1) 令和4年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒、県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査について

県立学校課長より説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹より説明した。

4 議決事項

午後1時37分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第19号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第19号 富山県立山荘指定管理者評価委員会委員任命の件

生涯学習・文化財室長より説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第19号については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○報告事項(1)関係

〔町野委員〕

- ・高校の卒業生で進学希望率が67.8から68.7と1ポイント程度上がっている。これは何かこうではないかと理由を捕捉しているのか。

〔教育長〕

- ・特に女子が高くなっているようだ。

〔県立学校課長〕

- ・確かに今年は過去5年でも高くなっているが、理由についてははっきりしたものはつかんでいない。

〔町野委員〕

- ・県立大でこういうデータを見ると、コロナの影響で女性の県内大学進学率が上がっている。コロナで親が県外に出したくないという意識が働いていて、これは大学を卒業して就職するときにまで働いている可能性がある。だからどうだということではないが、こんなところまでコロナが影響しているのかという感じた。

〔教育長〕

- ・確かにそういう影響もあるかもしれない。高校にその辺の感覚をヒアリングしてみるとというのは。

〔県立学校課長〕

- ・その辺は調べていないが、記録に残る平成12年度以降最も高い数字である。

〔坪池委員〕

- ・この2つの調査だが、これは県独自の調査か、それとも他の機関でやっているものなのか。

〔県立学校課長〕

- ・県独自で調査しているものである。

〔坪池委員〕

- ・見慣れているのであまり違和感はないが、男女別進路希望調査が今日的にどうなのかなと思った。ただ、違いを見せることによって確かにいろいろな面で使えるデータだと思うが、この後どうしていくかということも、独自調査であるということであれば、国の調査とも比較して項目を設ければいいのではないかと思う。

〔県立学校課長〕

- ・この点についてはご指摘の通り、時代的なことも考えて男女別を載せるのはどうなのかなということも検討したが、学校基本調査等では男女別で出されている部分もあり、女子はどうなのかなという問い合わせも実際あるので、こちらとしては公表しているこの結果を示すこともある。しかしこの時代、これでいいのかなということもあるので、その辺のご意見も伺い、それをふまえて次年度に向けてもう一度慎重に検討させていただきたいと思う。

〔坪池委員〕

- ・もちろん実施主体である県の判断となると思うが、並びのようなところもあるので、他県や国の施策を参考して考えてもらえればいいかと思う。

〔県立学校課長〕

- ・そのようにまた慎重に検討させていただきたい。

〔村上委員〕

- ・今こういうものもあるのだなと。学年によっても男女の違いがあると思うが、久しぶりに見た。

〔坪池委員〕

- ・確かにかつてはこういうものを見せる意義があったと思うが、これでないと見せるほどの違いもあるかなということもあるので、そのあたりのデータをどう使うかを含めて検討してもらえばいいと思う。

○その他

〔村上委員〕

- ・小学校等で外国籍のお子さんへの教育を以前に比べて手厚くやっというが、中学校から高校への進学に対するパーセンテージが上がっているとか、そういったことはどうか。

〔県立学校課長〕

- ・増えているかどうかは若干変動もあったように思うが、しっかりとしたデータがない。

〔教育長〕

- ・その件については確認しておきたいと思う。男女別のことについては確かにご指摘の点もあるが、改めて見ると女子の方が進学率が高いのだという新たな発見もあり、分野別に理系に進む女性がまだ少ないのが日本の課題だというご指摘もあつたりもする。そういう意味で男女別で出す意義もあるかなと思いつながら見ていたが、確かにご指摘のような視点もあると思う。今後しっかり検討していきたいと思う。

〔大西委員〕

- ・いま村上委員が言われたのは外国籍のお子さんの話だが、最近貧困と進学率というのも非常に密接な関係にあるということを知っている。貧困が進学への妨げになって、本当に学びたい子どもが学ぶ機会が得られないということで、負の連鎖というなかなか貧困から脱しきれないこともあろうかと思うので、その辺のクロスチェックというか、配慮もお願いしたいと思う。

〔県立学校課長〕

- ・クロスチェックとなると親御さんの年収にも関わることになり、相関がしっかりするような調査というのは難しい。ただご存知の通り支援金や授業料等、収入に応じて支援はかなり手厚くなってきているのかなと思いつているが、それでも確かに何らかの影響は避けられないのかなと思いつている。相関についてはまた研究させていただければと思う。

〔教育長〕

- ・就学支援金制度等、貧困に対応した支援の制度は以前よりは整ってきているとは思いつているが、少し前に生活保護世帯の大学進学率が富山県が低いという指摘もあつた。富山県は生活保護受給世帯自体が少ないので、1世帯が上がつたり下がつたりすることでポイントが大きく上下するという事情もあつたようだが、確かにそういった世帯の状況に限らず進学への夢をかなえるためにしっかりサポートしていくことが大事だと思うので、学校でも例えばスクールソーシャルワーカーなどが、いじめ・不登校の問題に限らず家庭の状況をふまえた支援につなげていくということで、市町村、児童相談所等とも連携をとって対応するようにしているため、今後もしっかりそういう意識を持っていきたいと思う。

〔町野委員〕

- ・女子の進学率・女性の社会進出の原因について、男性より女性の方が知識レベルの高い者を世の中から要求されているということがあるのではないかなと思いつている。だから意識レベルの高い者が専修学校へ行って勉強してレベルを上げ、就職するようになっているのかなと思いつている。1つの見方ではあるが。

〔教育長〕

- ・確かにそういう意識があるのかもしれない。

〔大西委員〕

- ・県PTA連合会の会議で、富山県ではワンチームとやま連携推進本部を設置し、市町村の行政活動を主な目的としているが、教育委員会側も同様な会議体をもって県内各市町村教育委員会同士の連携や情報共有をこれまで以上に図っていただけたらという話が各地域から出された。新型コロナウイルス感染症に対する対応とか、GIGAスクール構想に基づく教育現場におけるICTの導入とか、不登校生徒やヤングケアラーとか、いろいろな問題に各市町村も対応されているが、市町村の中で抱える悩みや、各市町村での対応の違いなどが県内各地の役員から寄せられている。

私は射水市だが、コロナウイルス対応関連では中学校の運動会や修学旅行については市の中学校長会が相談して決めていると聞いた。その結果、富山市や高岡市とは対応が違っている現状である。また同じ市内でも、コロナの濃厚接触者で登校が中止になった児童・生徒へのリモート授業やICTを活用した授業の内容について、小学校と中学校では全然違うという印象をもっているという話を聞く。先生方もすごく大変だと思うが、保護者や主人公である子ども達が、不安やもしかしたら不満を持っているのかもしれないと思いつたりする。冒頭にも言つたが、教育委員会版の、県と市町村教育委員会との会議体をもって情報共有をされたらどうかという提案があつたので、述べさせていだいた。

〔教育長〕

- ・市町村教育委員会との連携の場としては、県と市町村の教育長会議を年2回やっている。その場ではたとえば新年度の事業の取組み方針とか、情報交換、意見交換がメインになっている状況だが、その会議の持ち方とか、議事の設定の仕方、開催の仕方についても活性化していく方向で何かできないかという視点で考えて

みたいと思っている。分野別では、たとえば ICT 教育の担当者の県と市町村の会議や、今年度から新たに設置したものとしては特別支援教育に関して、県と市町村教育委員会の連携会議を立ち上げた。その会議にワンチーム会議という名前がついている。そういったところで少しずつ連携を深めようという動きはあるが、おっしゃられたようないろいろな分野での課題協議や、方針を共通できるところは共通化するかということを考えていければと思う。コロナ対応については市町村ごとの感染状況の違いも場合によってはあると思うし、リモート授業の対応も、中学校ではできても小学校の低学年では難しいとか、様々なご指摘のケースがどういうケースだったかわからないが、皆さんからご意見、ご指摘が出るということは少し疑問に思われたところもあるかと思うので、いろいろなところで連携は続けていきたいと思っている。

〔村上委員〕

- ・ 早く梅雨もあけ、これからいよいよ暑くなってくる。この1～2年は活動することは少なかったと思うが、最近は活動するようになってきている。今日の午前中、小学校の採血の現場に立ち会ったが、すごく具合が悪くなる子どもが多かった。採血の現場とか教室や玄関は涼しいが、廊下がむしむししてすごく暑いのにみんなマスクをしている。2重マスクの子もいる。すぐにマスクをとって休ませれば元に戻るが、熱中症で命を落とすこともある。マスクをしていると顔色がわからなくて、マスクを外してみると唇が真っ白ということがある。子ども達は真面目で、こんな時は外していいよと言ってもなかなかとらない。会話もしていないのだから外しなさいと外させてようやく元気になるということもある。保健体育課の方からは何度も学校に注意喚起してもらっていると思うが、特に小中学校でうまく取り外すことができない子どもが多いので、その辺を少し注意していただけたらと思う。先生方もWBGTとかで熱中症の指数を気にしておられると思うが、是非注意喚起をお願いしたいと思う。

〔教育長〕

- ・ ご指摘ありがとうございます。

〔保健体育課長〕

- ・ おっしゃられた通り、熱中症対策を優先してマスクを外す指導をしてくださいという通知はこれまでも何度か出している。最近、また改めて、マスクを外させていい場合はマスクを外すよう指導いただくよう適切な対応を、県立学校や市町村教育委員会等に文書でお願いしたところである。対面でも機会をとらえ、例えば先生方が集まる研修会とか体育の先生が集まる場面でこれまでもお願いしてきたが、今後も継続してお願いしていきたいと思っている。

午後1時42分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。